

科目名	公衆衛生学（卒業必修：栄養士必修：NR・SA 必修）				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2023 年度 前期	単位数	2		
担当教員	大益 史弘				
内容および計画	まず公衆衛生の歴史の流れを見ながら、健康の定義とそれと共に発展してきた公衆衛生の概念について全体像を把握する。社会および環境が人間の健康にどのように影響を及ぼすのか、健康を保持・増進するために社会および環境はどうあるべきか、これらの観点から社会および環境と健康との関わりについて学習する。公衆衛生学を理解する上での手法として、公衆衛生の歴史と共に発展してきた疫学を理解し、健康状態・疾病の測定と評価法について学習し、健康問題への様々な応用例を見ていく。さらに、出生及び死亡を中心とした人口問題から様々な保健統計指標について学習する。食生活、身体活動、喫煙行動、ストレス等の生活習慣の現状とその対策については特にデータを参照しながら近年の動向を把握する。また、主要疾患（がん、循環器疾患、歯科疾患、感染症）の疫学と予防対策について学ぶ。年齢や生活の場に応じた具体的な各公衆衛生活動を、保健・医療・福祉の制度および関連する法規を基本として学習する。				
1	公衆衛生学の概要・歴史・定義、国際保健				
2	疫学の概要、因果関係、研究デザイン、スクリーニング				
3	保健統計の概要、人口動態統計、人口静態統計、出生と死亡				
4	感染症の流行・動向・予防対策				
5	食品保健、国民の栄養、食品衛生管理				
6	生活環境の問題、公害問題、毒性評価、環境リスク対策				
7	飲用水の保全、大気汚染、土壌汚染				
8	日常生活と放射線、放射線の健康への影響				
9	温熱環境、騒音				
10	化学的因子と健康への影響、産業保健				
11	医療保障制度、地域保健				
12	高齢者医療・保健・福祉制度				
13	母子保健、学校保健				
14	ヘルスプロモーション、健康教育				
15	精神保健福祉				
教科書					
タイトル		著者名	出版社	ISBN	発行年
健康・栄養科学シリーズ 社会・環境と健康 2022-2023		辻一郎/吉池信男	南江堂	978-4-524-22985-7	2022
参考書	・国民衛生の動向 2016/2017 厚生労働統計協会 ・疫学-基礎から学ぶために 南江堂				
成績評価					
評価方法					割合(%)
定期試験					80
授業への参加度					20

学習到達目標	公衆衛生学の学術的背景を理解する。疫学を学習し、その分析手法のいくつかを「食」と「健康」の因果関係に活用できるようになる。人間の健康に影響する社会・環境について、近年の動向をデータで把握している。各公衆衛生活動を把握し、特に「食」の場面に応じた公衆衛生活動を考察することができる。
先修条件	
実務経験	
その他	